

## 2月定例市議会一般質問等の答弁要旨について

## 【一般質問】

〔議員名 会派〕		〔担当課〕	〔ページ〕
山田 延孝	会派新生	学校教育課	1
山田 延孝	会派新生	生涯学習・スポーツ課	3
平野 真理子	公明党	学校教育課	4
平野 真理子	公明党	中央図書館	8
橋尾 泰博	結	生涯学習・スポーツ課	10
岡田 信俊	会派新生	教育センター	11
吉野 恭介	会派新生	生涯学習・スポーツ課	12
前田 伸一	公明党	学校教育課	14
太田 緑	無所属	文化財課	15
太田 緑	無所属	学校教育課	16
上杉 栄一	会派新生	生涯学習・スポーツ課	17
金谷 洋治	会派新生	学校教育課	18
寺坂 寛夫	会派新生	生涯学習・スポーツ課	20
足立 考史	無所属	学校教育課	22

## 【質疑】

〔議員名 会派〕		〔担当課〕	〔ページ〕
岩永 安子	共産党	生涯学習・スポーツ課	23

## 鳥取市議会〔一般質問〕 教育長・局長答弁 対応方針等 概要

市議会名	平成28年2月定例会		
議員名	山田 延孝	担当部局	教育委員会
会派名	会派新生	担当課	学校教育課
質問・答弁月日	2月24日		
質問形態	代表質問	個別質問	登壇
質問事項	<p>17 鳥取市の教育等の振興に関する大綱について                  (1) ふるさとへの愛を育む教育のあり方について                  (2) 小中学校での具体的な進め方について</p>		
<p><b>【質問要旨】</b></p> <p>(1) ふるさとへの愛を育む教育の在り方に対する市長のビジョン                  (2) ふるさとへの愛を育む教育を具体的にどのように進めてくのか</p>			
<p><b>【答弁要旨】</b></p> <p>(1) 鳥取市には、豊かな自然や産業、奥深い歴史や文化財など、<u>たくさんの地域資源があり、温かい人の関わりや魅力ある地域、誇れる人の生き方がある。その「鳥取らしさ」を最大限に生かして、郷土愛を育むためには、ふるさとの良さを子ども達が理解し、心から実感できるような教育を行うことが大切。</u>                  学校での郷土に関する学習を推進することは、もちろん、地域の協力を得て、子ども達が、地域資源を活かした多様な取組みや地域の人との交流を行うことで、郷土のすばらしさを実感し、<u>自信や誇り</u>を持つことができる。さらに出会いを通して、自分を取り巻く人々への<u>感謝や敬愛</u>の念など、豊かな心も育っていく。                  また、一方で、子どもから愛されるふるさとにしていくためには、我々大人が、<u>どうふるさとを守り、創っていくのか</u>ということも大切にしなければならない。<u>我々大人が、ふるさと鳥取を守り、創っていく事も大切にしながら、子ども達が、心の底から鳥取市を愛し、志を持って未来を切り開いていけるよう、これから、学校・家庭・地域・関係機関が一層連携を深め、施策を積極的に実施していきたい。</u>                  (2) 教育こそ人づくり。<u>教育大綱に基づき、基本計画を策定中。そのための施策を構築中。</u>                  人は、生まれ育ったところの原風景を持ち、ふるさは、心の拠り所として心安らぐ場である。ふるさは愛すると同時に、土地をよくしていかなければならないという願いを持ち、自己の向上を駆り立てるものでなければならない。                  これまで、大切にしてきた「ふるさとを思い志を持つ子」を理念にしていたが、加えて、夢と希望に満ちた次代を拓くことに力を入れていきたい。  <u>そのためには、ふるさとの誇りとする人や自然、地域の文化など、鳥取のよさに関わらせる学習や体験、交流を積極的に行っていきたいと考えている。</u>  <u>具体的には、道徳はもちろん総合的な学習の時間などいろいろな場面で地域の特色を調べ、分かったことや体験した良さを広く発信する取組をこれからも行っていきたい。</u>                  また、「<u>鳥取市の志</u>」という郷土の発展に尽くした人物教材集を作成している。<u>道徳の時間などで、郷土への誇りや将来への志を育てる学習で活用していきたい。</u>                  それから、<u>中山間地域への民泊をし、人の温かさに触れ、鳥取の自然の素晴らしさを実感させる取組を続けていきたい。</u>                  また、一方で、<u>グローバルな視点でふるさとを外から眺めることも大切で、広い世界から郷土鳥取の素晴らしさに気づき、ふるさとを愛し、誇りの持てる子どもを育てたい</u>と考えている。世界の言語や文化を体験させていきたい。  <u>いずれにいたしましても、次代を展望しながら、ふるさと鳥取で育ち、ふるさとに貢献する子ども達に大きな期待をしながら教育を進めていきたい。</u></p>			
<b>【対応方針・進捗状況】</b>		検討中	対応中
<b>対応済</b>			
◆ 対応方針			
◆ 進捗状況			
◆ 報告日 平成28年3月22日(3月定例教育委員会)			

## 鳥取市議会〔一般質問〕 教育長・局長答弁 対応方針等 概要

市議会名	平成28年2月定例会		
議員名	山田 延孝	担当部局	教育委員会
会派名	会派新生	担当課	学校教育課
質問・答弁月日	2月24日		
質問形態	代表質問	個別質問	登壇
質問事項	<p>18 教科書問題に関連して            (1) 業者側からの金銭授受の事実確認について            (2) 教科書採択の公平・公明性の確保について</p>		
<p><b>【質問要旨】</b></p> <p>(1) 県教育委員会は、1月29日、2009年（平成21年）から2014年（平成26年）にかけて、校長、教頭を含む教員延べ15人が事前の閲覧を行い、31人は閲覧したうえで業者側から金銭を受け取ったとして調査を始めたことを公表した。これらの事実について教育長の所見を求める。また、<u>本市における調査状況についてもお尋ねする。</u></p> <p>(2) 教科用図書検定規則では、申請内容の保秘や採択関係者への接触禁止を規定している。調査員が教科書会社との接触等があるとすれば法令違反であり、教科書採択の公平・公明性が大きく損なわれると考える。<u>大きな問題であると考えているが、改めて教育長の所見を求める。</u></p>			
<p><b>【答弁要旨】</b></p> <p>(1) 教科書採択の仕組みについては、先ほど議員がお話しされた通りであり、本市においても、その流れにそって、公正・公平に留意し採択を実施している。            今回の事案については、現在、国の流れを受け、県教委からの依頼で、教科書会社との接触の有無、あるいは接触の状況など様々に調査をしているところである。  <u>今回の件については、調査中のことではあるが、問題視されていることが事実であるとすれば、誠に遺憾である。</u></p> <p>(2) 全国的に問題となっている今回の事案については、<u>事実であれば、採択の公正性・透明性の確保の原則からして文科省の規則に明らかに反しているのが遺憾である。</u>            今回の事案について、仮に、それが採択に影響を与えるような者がいたとすれば、<u>採択の公正さがゆがむ恐れがあり、決して許されることではないと思っている。</u></p>			
<b>【対応方針・進捗状況】</b>	検討中	対応中	対応済
◆ 対応方針			
◆ 進捗状況			
◆ 報告日 平成28年3月22日(3月定例教育委員会)			

## 鳥取市議会〔一般質問〕 教育長・局長答弁 対応方針等 概要

市議会名	平成28年2月定例会		
議員名	山田 延孝 議員	担当部局	教育委員会
会派名	会派新生	担当課	生涯学習・スポーツ課
質問・答弁月日	2月24日		
質問形態	代表質問	個別質問	登壇
質問事項	<p>19 スケート施設整備に関連して  (1) スケートリンクの実現に向けての取り組みについて</p>		
<p><b>【質問要旨】</b>  (その1) 平成26年3月に鳥取市スケートリンク検討委員会からの検討結果報告を受けてから、これから2年が経過した。<u>実現に向けての取り組みについて</u>お尋ねする。</p>			
<p><b>【答弁要旨】</b>  (その1)  新たな公共施設であるスケートリンクの整備については、本市が平成27年2月に定めた『鳥取市公共施設の経営基本方針』に基づき、<u>極めて慎重に検討する必要がある。</u>  整備にあたっては、市民サービスの向上と整備に伴う財政負担をどのようにバランスをとるのか、また、ファシリティマネジメントとの整合性をどう図っていくのかといった様々な課題がある。  教育委員会では、本市の中核的なスポーツ施設である市民体育館の耐震性不足や老朽化対策など、喫緊の課題への対応を優先しており、<u>現在、市民体育館をはじめとする市内全域の体育館等の今後の方向性について検討している。</u>  <u>この中でスケートリンク整備に係る考え方も整理し、方向性を打ち出したい。</u></p>			
<b>【対応方針・進捗状況】</b>	検討中	対応中	対応済
◆ 対応方針			
◆ 進捗状況			
◆ 報告日 平成28年3月22日(2月定例教育委員会)			

## 鳥取市議会〔一般質問〕 教育長・局長答弁 対応方針等 概要

市議会名	平成28年2月定例会		
議員名	平野 真理子	担当部局	教育委員会
会派名	公明党	担当課	学校教育課
質問・答弁月日	2月25日		
質問形態	代表質問	個別質問	登壇
質問事項	5 市民の健康と暮らしについて (3) がん対策について ②学校におけるがん教育について		
<b>【質問要旨】</b> 学校におけるがん教育の具体的な取組			
<b>【答弁要旨】</b> がん教育については、 <u>小学校5・6年生と中学生が、保健体育の時間を中心に学習している。</u> 加えて、より専門的な学習や保護者研修を行うために、 <u>学校医や学校薬剤師、東部サポートセンターの職員、市の保健師などを招いて、がん予防教室や、薬物乱用防止教室を開催している学校も増えており、平成27年度は、小学校30校、中学校14校が実施している。</u> 引き続きこのような事業を一層進めていきたい。 このように予防教室を受けて、生徒は、「周りの人が煙草を吸っていたら止めたい。日頃から、がん予防を心がけ、健康的な生活を送ってきたい。」と <u>がんに対する理解や認識を高めている。</u> また、 <u>学校保健安全委員会や中学校区で実施している教育フォーラムで生活習慣や健康問題を取り上げ、校区をあげてがん予防や生活習慣の大切さに取り組んでいるところもある。</u> こういった場面では、 <u>一層工夫をこらしていきたい</u> と考えている。 いずれにしても、引き続き、生活習慣の大切さを学び合う機会をつくり、行政、家庭、学校が連携を図りながら、がんに関する教育を進めていきたい。			
<b>【対応方針・進捗状況】</b>		検討中	対応中
<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">対応済</span>			
◆ 対応方針			
◆ 進捗状況			
◆ 報告日 平成28年3月22日(3月定例教育委員会)			

## 鳥取市議会〔一般質問〕 教育長・局長答弁 対応方針等 概要

市議会名	平成28年2月定例会		
議員名	平野真理子	担当部局	教育委員会
会派名	公明党	担当課	学校教育課
質問・答弁月日	2月26日		
質問形態	代表質問	個別質問	登壇
質問事項	<p style="text-align: center;">10 多様な教育環境の整備について (1) フリースクールについて</p>		
<p><b>【質問要旨】</b> フリースクールの現状について伺う。</p>			
<p><b>【答弁要旨】</b></p> <p>不登校状態にある子どもたちの中には、学校や公的な適応指導教室に通うことができない子もいる。そのような子どもたちに、教育の機会を保障することは大切であり、NPO法人などの民間施設が運営するフリースクールが学びの場になるのであれば、そこと連携していくことは意味のあることだと考える。</p> <p>そのような考えのもと、<u>本年度「不登校児童生徒を指導する民間施設」として2施設を認定し、そこで指導を受けている児童生徒は、指導要録上の出席扱いとできることを定めるとともに、連携を図ってきた。</u></p> <p><u>認定にあたっては、国や県、本市の定めた要件を満たし、学校復帰を目標とした施設であることを前提としている。今後も申請があれば、認定基準に従って検討し、基準を満たしていればこれまでの2施設と同様、子どもたちの学びの場として認定し、学習を保障していきたい。</u></p>			
<b>【対応方針・進捗状況】</b>	検討中	対応中	対応済
◆ 対応方針			
◆ 進捗状況			
◆ 報告日 平成28年3月22日(3月定例教育委員会)			

## 鳥取市議会〔一般質問〕 教育長・局長答弁 対応方針等 概要

市議会名	平成28年2月定例会		
議員名	平野真理子	担当部局	教育委員会
会派名	公明党	担当課	学校教育課
質問・答弁月日	平成28年2月25日		
質問形態	代表質問	個別質問	登壇
			追及
質問事項	<p>1 1 18歳選挙権導入に伴う投票環境の充実について          (1) 主権者教育について          追及1 小中学校教員の意識や教育委員会の対応について</p>		
<p><b>【質問要旨】</b></p> <p>主権者教育を進める教員には、政治的中立が義務付けられている。現実の政治課題を取り扱う場合、戸惑いや不安、偏った教育による問題点も指摘されている。このような現状の中、主権者教育に対する教職員の意識の変化と本市の取組について教育長に伺う。</p>			
<p><b>【答弁要旨】</b></p> <p>この度の選挙権年齢の引き下げに伴い、小中学校教員の関心は、「小中学校でどんな力をつけていけばよいのか」にあり、<u>現行の学習指導要領の内容を、「主権者教育」の視点でとらえて指導しようとする意識の変化が見られる。</u></p> <p>そこで、今後「主権者教育」を進めるにあたり、小中学校では改めて、広く社会に目を向けさせること、自分との関わりの中で社会をとらえさせること、社会の一員としての自覚と責任を持つことの大切さに一層重点を置いて指導することが大切だと考えている。実例としては、新聞記事についてコメントを言わせたり、教材としてニュースを取り上げて議論させたりして、世の中の動きに関心を持たせる授業をいろいろ工夫している。</p> <p>次いで、<u>教育委員会としては、文部科学省の動きを注視しながら、出前授業や議場見学、リーフレットの活用等を促すとともに、小中学生が市政について議論する場の設定についても検討していきたい。</u>可能なら、この議場でミニ議会の体験をさせてもらえたら効果的ではないか。</p> <p>併せて、<u>これまで以上に小中学校の一貫した教育を充実させることが求められる。</u>小・中それぞれの段階で、先に述べた3つの力を身につけるため、日々、はっきり考えを述べ主体的に関われるよう、大人が見守り育てていくことも大切ではないかと考えている。結果として、責任ある判断力を備えた「未来の主権者」の育成につながるものと考えている。</p>			
<b>【対応方針・進捗状況】</b>		検討中	対応中
<p>◆ <b>対応方針</b></p> <p>市議会場を利用した小中学生による議会の開催について、次年度実施を目途に検討を進める。</p>			
<p>◆ <b>進捗状況</b></p>			
<p>◆ <b>報告日</b> 平成28年3月22日(3月定例教育委員会)</p>			

## 鳥取市議会〔一般質問〕 教育長・局長答弁 対応方針等 概要

市議会名	平成28年2月定例会		
議員名	平野 真理子	担当部局	教育委員会
会派名	公明党	担当課	学校教育課
質問・答弁月日	2月25日		
質問形態	代表質問	個別質問	登壇
質問事項	<p>10 多様な教育環境の整備について                  (2) 放課後児童クラブについて</p>		
<p><b>【質問要旨】</b></p> <p>①放課後児童クラブの入級希望者の見込みと対応策について                  ②申し込みの段階で、受入人数がいっぱいで入れない、迎えの時間が間に合わないなどの心配にどう対応するのか。</p>			
<p><b>【答弁要旨】</b></p> <p>①平成28年度の入級児童数については、直近の聞き取り調査によると、<u>2,218人を見込んで</u>いる。  <u>定員を上回る申し込みを受けたクラブについては、保護者会、学校と協議し、開設場所を確保し、クラブを分割、拡充しながら、希望者全てを受け入れるための対応をとることとしている。</u>                  現時点では平成28年度は5クラブを分割、1クラブの部屋を拡充、1クラブの新設を予定している。</p> <p>②入級希望者全てを受け入れるため、クラブの拡充等をする必要があれば、保護者会等と協議して対応を進めることとしている。                  しかし、支援員等の確保の問題など、急な拡充等の対応ができず、<u>入級を断らなければならない場合は、クラブ側から市へ連絡していただき、クラブと一緒に今後の対応を検討することとしている。</u>                  また、開設時間については、新年度は18時まで延長するクラブが1クラブ、18時30分までとするクラブが2クラブ予定されている。                  市としては、引き続き<u>各地域の実情やニーズについて、クラブと連携しながら把握に努め、必要に応じて開設時間の延長と一緒に検討する</u>などし、利便性の向上を図っていきたいと考えている。</p>			
<b>【対応方針・進捗状況】</b>	検討中	対応中	対応済
◆ 対応方針			
◆ 進捗状況			
◆ 報告日 平成28年3月22日(3月定例教育委員会)			



## 鳥取市議会〔一般質問〕 教育長・局長答弁 対応方針等 概要

市議会名	平成28年2月定例会		
議員名	平野議員	担当部局	教育委員会
会派名	公明党	担当課	中央図書館
質問・答弁月日	2月25日		
質問形態	代表質問	個別質問	登壇
質問事項	10 多様な教育環境の整備について (3) 図書館事業について		
<p><b>【質問要旨】</b></p> <p>全国の書店が減少していく中で、図書館の意義や役割は大きくなっている。図書館の現状と今後の取り組みについて教育長に伺う。</p>			
<p><b>【答弁要旨】</b></p> <p>本市の図書館は、中央図書館を中心として、移動図書館車と併せて市内の小中学校や鳥取大学などにも図書を搬送する仕組みを構築しており、市内248か所で受け取れるようにしている。これらのサービスは、インターネットモニターのアンケート結果でも「満足」、「やや満足」と答えた人が、約45%と半数近い評価をいただいている。</p> <p>現在図書館では、今後の基本的な方向として「学びの場」「交流と創造の場」「読書を支える場」をめざして「図書館振興計画」を策定中である。</p> <p>具体的な施策の1つとして、例えば、新たにコンビニでの図書の受け取りサービスを計画しており、新年度には、1か所のコンビニで試行し、さらなる図書館サービスの向上を図りたい。</p>			
<b>【対応方針・進捗状況】</b>	検討中	対応中	対応済
◆ 対応方針			
◆ 進捗状況			
◆ 報告日 平成28年3月22日(2月定例教育委員会)			

## 鳥取市議会〔一般質問〕 教育長・局長答弁 対応方針等 概要

市議会名	平成28年2月定例会		
議員名	平野議員	担当部局	教育委員会
会派名	公明党	担当課	中央図書館
質問・答弁月日	2月25日		
質問形態	代表質問	個別質問	登壇
質問事項	10 多様な教育環境の整備について (3) 図書館事業について		
<b>【質問要旨】</b> 全国の自治体の中には、図書館が利用しづらい、障がい者や高齢者、出産前後の方などに、自宅へ本を届けるサービス（宅配サービス）に取り組んでいるところもあると聞く。宅配サービスについてどのように考えているか教育長に伺う。			
<b>【答弁要旨】</b> 現在本市の図書館では、移動図書館車の搬送による福祉施設等への団体貸出を一部行っているほか、希望する視覚障がい者へは点字図書や録音資料の郵送サービスを行うこととしている。 その他の障がい者や高齢者、出産前後の来館が困難な利用者への宅配サービスの導入に向けては、具体的に、ボランティアの活用や郵送等の経費負担の問題、対象者や貸出期間などの検討が必要である。 現在策定中の「図書館振興計画」に、その制度化に向けての検討を盛り込むこととしている。			
<b>【対応方針・進捗状況】</b>		検討中	対応中
<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">対応済</span>			
◆ 対応方針 制度の検討について、図書館振興計画に盛り込む。			
◆ 進捗状況 図書館振興計画を3月中に策定予定			
◆ 報告日 平成28年3月22日(2月定例教育委員会)			

## 鳥取市議会〔一般質問〕 教育長・局長答弁 対応方針等 概要

市議会名	平成28年2月定例会		
議員名	橋尾 泰博 議員	担当部局	教育委員会
会派名	結	担当課	生涯学習・スポーツ課
質問・答弁月日	2月25日		
質問形態	代表質問	個別質問	登壇 追及
質問事項	<p>6 健康遊具の設置について          (1) 指導者の養成・管理体制について</p>		
<p><b>【質問要旨】</b>          (その1) スポーツに関する施策を総合的に推進するための指針として「鳥取市スポーツ推進計画」の策定作業を進めているが、<u>健康遊具の設置効果をどのように捉えるのか</u>所見を伺う。</p>			
<p><b>【答弁要旨】</b>          (その1)          現在策定を進めている「鳥取市スポーツ推進計画」の基本理念は、『すべての市民がいつでもスポーツ活動を実践できる環境を整え、スポーツ活動を通じて、生涯にわたって活力に満ちた豊かな生活を送ることができる鳥取市』である。そして、この基本理念実現のための<u>基本方針の一つを「生涯スポーツ社会の実現」としている</u>。これは、市民の誰もが関心や適性等に応じ、生涯にわたってスポーツ活動を行うことができる社会の実現を目指すものである。  <u>健康遊具については、日常生活の中に、気軽に運動に触れる環境という観点から、シニア世代の健康の維持・増進を図ることになり、スポーツ推進計画の理念と一致するもの</u>と考える。</p>			
<b>【対応方針・進捗状況】</b>	検討中	対応中	対応済
◆ 対応方針			
◆ 進捗状況			
◆ 報告日 平成28年3月22日(2月定例教育委員会)			

## 鳥取市議会〔一般質問〕 教育長・局長答弁 対応方針等 概要

市議会名	平成28年2月定例会		
議員名	岡田議員	担当部局	教育委員会
会派名	会議新生	担当課	学校教育課
質問・答弁月日	3月3日		
質問形態	代表質問	個別質問	登壇 追及
質問事項	<p>1 中核市移行について (4) 教職員の研修について</p>		
<p><b>【質問要旨】</b></p> <p>(追求⑤) 市が自ら教職員の研修を行うことで、実施体制的に、どのようなことが変わるのか伺う。  (追求⑥) 教職員研修を市の教育委員会が実施していく中で、教職員の勤務の負担、学校事務職員の事務負担に関して、変わる部分があるのかどうかお尋ねする。  (追求⑦) 市の教育委員会自らが、教職員研修を行っていく体制を整えられようとしている中で、どのような教育、どのような人づくりに力を入れようとされているか伺う。</p>			
<p><b>【答弁要旨】</b></p> <p>(追求⑤)  市が自ら研修を行うことにより、鳥取市の特色や実態を踏まえ、<u>鳥取市の教育を担う教職員をどう育てたらよいか、そのために何が必要か、トータルに考え企画することができる</u>と考えている。研修を行う際には、鳥取市の教育方針や取組について直接教職員に伝える機会が増えると考えている。さらに、学力調査の結果や不登校の状況等、県全体ではなく、鳥取市の実態をもとにするので、課題が明確になる。それに基づいて指導方法等を具体的に話し合うことができ、指導主事が各学校の実態に合ったきめ細やかなアドバイスを加えることができる。このことで、<u>研修がより実践的・効果的なものになり、教職員の意欲も高まることと期待している。中核市への移行により、鳥取市の実態に合ったきめ細やかな研修や指導を行いながら、教育の質の向上に資することができる</u>と考える。</p> <p>(追求⑥)  教職員の多忙化解消については、たとえば、成績や保健関係をはじめ多種多様な書類の管理やデータの共有ができる「<u>校務支援システム</u>」を導入し、<u>業務の効率化をめざしている</u>。また、支援員や図書館司書など教員以外の専門的人材の配置を進め、<u>教員が教育活動へ専念できるようにしたり、学校徴収金の処理業務への対応を工夫したりする取組も進めていく</u>ことにしている。中核市への移行による教職員研修については、市内で実施するため、<u>移動時間・距離が軽減されるとともに、内容を精選することで、半日開催にしたり、回数を減らしたりすることもできると考えている</u>。中核市移行に伴い研修の在り方や方法を考えながら、<u>教育の質の向上にしっかりとつながるよう、教職員の負担軽減をすすめていきたい</u>。</p> <p>(追求⑦)  平成28年度から始まる「教育大綱」では、鳥取市教育ビジョン「<u>ふるさとを思い 志をもつ子</u>」の育成をめざしながら、ICTの活用やグローバル化に対応した英語教育、アクティブ・ラーニング（<u>子どもの主体的な学び</u>）など新たな取組を図り、<u>鳥取市だからこそできるきめ細やかな教育を行い、夢と希望に満ちた次の時代を切り拓いていく子どもたちのために、様々な施策を推進していく</u>こととしている。鳥取市が自ら教職員の研修を行うことで、市が取り組んできている小中の枠組みをこえた一貫の教育や兼務教員などの具体的な取組について、<u>なお一層意識改革を図ることができる</u>と考えている。全国に発信している鳥取市の教育を、<u>教職員がしっかりと理解し、夢と希望・誇りをもって日々の教育活動に取り組んでくれることを期待している</u>。</p>			
<b>【対応方針・進捗状況】</b>		検討中	対応中 対応済
◆ 対応方針			
◆ 進捗状況			
◆ 報告日 平成28年3月22日(3月定例教育委員会)			

## 鳥取市議会〔一般質問〕 教育長・局長答弁 対応方針等 概要

市議会名	平成28年2月定例会		
議員名	吉野 恭介 議員	担当部局	教育委員会
会派名	会派新生	担当課	生涯学習・スポーツ課
質問・答弁月日	3月3日		
質問形態	代表質問	個別質問	登壇
質問事項	<p>1 人と地域の連携について</p> <p>(1) 青少年と地域のつながりについて</p> <p>① 現状把握について</p> <p>② 市民体育祭への参加について</p> <p>(2) 高齢者と地域のつながりについて</p>		
<p><b>【質問要旨】</b></p> <p>(その1) <u>青少年と地域のつながりは非常に重要と考えるが、中学校卒業以降のつながりが弱まっていると感じる。教育委員会として現状をどのように認識しているのか。</u></p> <p>(追及1) <u>市民体育祭は青少年と地域を繋ぐ非常に重要なイベントであるが、高校生・大学生等には参加資格が与えられていない。再来年の60回大会を記念大会として、青少年にも参加資格を与えてはどうか。</u></p> <p>(追及2) <u>スポーツ推進計画において、どのように高齢者のスポーツ活動を推進しようと考えているのか。高齢者と地域とのつながりという観点での考え方があれば伺いたい。</u></p>			
<p><b>【答弁要旨】</b></p> <p>(その1) 地域には、こどもたちの安全を守り、様々な体験活動の場として大きな役割と責任があり、<u>青少年と地域とのつながりは、青少年の健全育成に非常に重要であると認識している。</u></p> <p>子どもたちは、ほとんどの地域で、<u>小学校又は中学校の卒業と同時に地域の「子ども会」から卒業し、この時期を境に地域とのつながりは極端に減っている状況にある。</u>加えて中学校卒業後は、生活圏域が大きく広がること等から、<u>『地域とつながること』以外の方向に興味や関心が向いていると感じている。</u></p> <p>また、<u>地域社会は、高齢化や核家族化、ライフスタイルの多様化等に伴い人のつながりが希薄化し、地域と家庭の教育力低下が大きな課題となっている。</u></p> <p><u>このため、学校・家庭・地域が一体となって、これまで以上に『ふるさと愛』を育む教育を推進していくことが重要である。</u></p> <p>本市が現在策定を進めている『教育等の振興に関する大綱』や『教育振興基本計画』の中でも、伝統芸能の継承を通してふるさとの誇りに触れる学習を推進したり、青少年が地域の代表として各種大会へ参加する機会の充実を図る等して、<u>『ふるさと愛』を育み、地域と青少年のつながりの再構築を図っていきたい。</u></p> <p>(追及1) 現在、陸上競技と水泳競技に小学生のオープン種目があるものの、<u>市民体育祭の参加選手資格は、学生以外の住民登録者となっている。</u></p> <p>中学生や高校生が、地域の大人と一緒に市民体育祭に参加するような地域活動は、青少年と地域とのつながりを深め、地域内の世代間交流と地域活性化への効果も期待できる。</p> <p>また、市民体育祭が今後ますます発展していくためには、年齢や性別、障がい等を問わず、より多くの市民が参加できる大会としていくことが大切である。</p> <p>青少年の参加資格については、部活動や学校行事との調整、あるいは地域特性（湖山、津ノ井など）等の課題はあるかもしれないが、<u>各地区体育会や各種競技団体の皆さんとしっかりと検討を進めていきたい。</u></p> <p>(追及2) 本市のスポーツ推進計画では、超高齢社会にあっては、「する」スポーツ、「みる」スポーツはもとより、<u>応援したりボランティアなどで参画しながら高齢者が健康状態に応じて無理なく楽しみながらスポーツに触れ親しむ環境づくりをめざしている。</u></p> <p>具体的な施策としては、地域体育会やスポーツ推進委員などの地域スポーツを支える各種団体や人材を育成・支援し、日常生活に密着したスポーツ環境を整え、高齢者の地域における主体的なスポーツ活動を促進したい。</p> <p>また、<u>高齢者が参加しやすい競技種目を市民体育祭やスポーツレクリエーション祭にこれまで以上に取り入れたい。</u></p> <p>このような考えのもとに、年齢や性別、障がい等を問わず、すべての市民が、スポーツを通して地域とつながりが持てる環境と機会の提供に努めていきたい。</p>			

【対応方針・進捗状況】	検討中	対応中	対応済
◆ 対応方針			
◆ 進捗状況			
◆ 報告日 平成28年3月22日(2月定例教育委員会)			

## 鳥取市議会〔一般質問〕 教育長・局長答弁 対応方針等 概要

市議会名	平成28年2月定例会		
議員名	前田 伸一	担当部局	教育委員会
会派名	公明党	担当課	学校教育課
質問・答弁月日	3月3日		
質問形態	代表質問	個別質問	登壇 追及
質問事項	<p>2. 教育の充実・郷土愛醸成のまちづくりについて                  (1) ジオパークの学習を通じた人づくりについて</p>		
<p><b>【質問要旨】</b></p> <p>①ユネスコ総会で、世界ジオパークの正式事業化が決定されたが、教育長の所見を伺う。                  ②現在の教育現場の中でのジオパーク学習で、どのような展開をしているのか現状と課題を伺う。                  ③ジオパーク学習を教育課程の一環として取り組む必要があると思うが、今後の取組について伺う。</p>			
<p><b>【答弁要旨】</b></p> <p>①世界ジオパークが国際社会から一層高く評価されたことであり、<u>大変素晴らしく、意味の大きいもの</u>と考える。「ジオパーク」は、そこに暮らす人々が、大地の遺産を保護しながら、自然と共存し、教育、観光、地域活性化といった観点から、<u>地域が元気になるようにみんなで考えて活用、実行するしくみであり、まちづくり、郷土愛につながる取り組み</u>であると認識している。                  今後は、この大地を、大きな視点を子どもたちに持たせて、教育に活用していきたいと思っている。</p> <p>②小中学校では、<u>観察や体験を中心とした学習が、理科や社会、総合的な学習を中心に展開</u>されている。専門的な話を聞きながら、<u>自分の目で見えて観察することで、より理解を深め、ジオパークへの関心を高めている</u>。見学場所であるジオサイトに実際に出かけて学習するには、<u>多くの時間がかかることが課題</u>だが、<u>現地見学型の校外学習は、やはり意義のある学習</u>であると考えている。</p> <p>③本市では、<u>小学校4年生が、全市的に社会科の中で学習しているが、広い鳥取市のエリアであるため、各地域によって実態が多様であり、各校が独自性を大切にした特色のある教育課程を組みながら、学習を進めてきている</u>。                  例えば、<u>福部小・中学校では、出前講座を活用しながら砂丘検定に取り組んでいる</u>。<u>国府東小学校では、雨滝の豆腐づくりや上地(わじ)の棚田を見聞しながら、自然と共存して生活する人々の姿を学んでいる</u>。今後も、<u>関係機関とも連携をとりながら、しっかりと取り組んでいきたい</u>と考えている。</p>			
<b>【対応方針・進捗状況】</b>	検討中	対応中	対応済
◆ 対応方針			
◆ 進捗状況			
◆ 報告日 平成28年3月22日(3月定例教育委員会)			

## 鳥取市議会〔一般質問〕 教育長・局長答弁 対応方針等 概要

市議会名	平成28年2月定例会		
議員名	太田議員	担当部局	教育委員会
会派名	無所属	担当課	文化財課
質問・答弁月日	3月3日		
質問形態	代表質問	個別質問	登壇
			追及
質問事項	2 歴史遺産を生かしたまちづくりについて (1) 城跡周辺整備について		
<b>【質問要旨】</b> 大手登城路整備の現在の整備状況と今後の計画について伺う。			
<b>【答弁要旨】</b> 大手登城路の整備については、来年度には擬宝珠橋の復元工事に着手し、平成29年度には大手登城路正面にあたる擬宝珠橋が完成する予定となっている。 今後、順次工事に着手することとなるが、大手登城路全体の完成は当初目標の平成30年度は難しくなったものの、平成30年代前半の早い時期の完成を目指して事業を進めていきたいと考えている。			
<b>【対応方針・進捗状況】</b>		検討中	対応中
<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">対応済</span>			
◆ 対応方針			
◆ 進捗状況			
◆ 報告日 平成28年3月22日(2月定例教育委員会)			



## 鳥取市議会〔一般質問〕 教育長・局長答弁 対応方針等 概要

市議会名	平成28年2月定例会		
議員名	太田 縁	担当部局	教育委員会
会派名	無所属	担当課	学校教育課
質問・答弁月日	3月3日		
質問形態	代表質問	個別質問	登壇
			追及
質問事項	1 鳥取の再生可能なエネルギー資源とまちづくり (4) エネルギー資源と教育について		
<p><b>【質問要旨】</b></p> <p>追及6 環境保全や再生可能エネルギーの活用について、義務教育課程でどのような教育が行われているか。</p>			
<p><b>【答弁要旨】</b></p> <p>多くの教科の学習指導要領には、「持続可能な社会の構築や実現」が明記されており、社会科や理科をはじめ、国語の題材でも<u>エネルギー事情や環境保全について学習している。</u>また、最近では家庭や公共施設にもソーラーパネルが設置され、<u>子どもたちにとって再生可能エネルギー利用の様子は身近になっている。</u></p> <p>しかしながら、<u>有限な石油や石炭はもとより再生可能エネルギーにおいても、多くの技術や経費が費やされて電気やエネルギーに転換されていることを実感、体験させ、あわせて地球環境保全の大切にも気づかせていかななくてはならない。</u></p> <p>福島県郡山市との小学生交流会では、国内最大級の福島再生可能エネルギー研究所を見学し、再生可能エネルギーについて様々な実験や説明を受け、体験している。</p> <p>スイッチ一つで電気がつく時代である。</p> <p>改めて、文化財課の事業のように古代の火おこし体験などを思い起こしながら、<u>エネルギーの大切さを学校の学習はもとより普段の生活の中でもしっかりと考えさせたい。</u></p> <p>また、「もったいない」という言葉があるが、簡単に何でもできる生活ではなく、そういう生活の仕方を経験させることも大切だと考える。</p>			
<b>【対応方針・進捗状況】</b>	検討中	対応中	対応済
◆ 対応方針			
◆ 進捗状況			
◆ 報告日 平成28年3月22日(3月定例教育委員会)			

## 鳥取市議会〔一般質問〕 教育長・局長答弁 対応方針等 概要

市議会名	平成28年2月定例会		
議員名	上杉 栄一 議員	担当部局	教育委員会
会派名	会派新生	担当課	生涯学習・スポーツ課
質問・答弁月日	3月4日		
質問形態	代表質問	個別質問	登壇
質問事項	<p>1 スポーツ施設整備に関連して  (1) スケートリンクの整備について</p>		
<p><b>【質問要旨】</b></p> <p>(追及1) 近年、全国の公設スケートリンク整備では、民間資金等を導入し、公設民営、民間資金導入による運営等が多いとは聞いているが、<u>運営形態と経営状況について</u>伺う。</p>			
<p><b>【答弁要旨】</b></p> <p>(追及1)</p> <p>近年の新設された事例としては、平成25年8月にオープンした「ひょうご西宮アイスアリーナ」、平成26年2月の「新潟アサヒアレックスアイスアリーナ」、同11月にオープンの「埼玉アイスアリーナ」がある。</p> <p>ひょうご西宮アイスアリーナは、兵庫県スケート連盟が主体となり、兵庫県が土地を無償貸与し、民設民営で設置運営されている。</p> <p>埼玉アイスアリーナは、埼玉県が主体となって、土地を県が無償貸与し、公益財団法人埼玉県体育協会が民間資金を調達して設置運営を行っている。</p> <p>新潟アサヒアレックスアイスアリーナに関しては、建設資金はt o t oの助成金等を活用して新潟市が調達し、DBO（民間事業者が設計、建設、管理、運営を一括で実施する方式）での入札提案方式で設置及び管理する方式をとっている。</p> <p>それぞれの施設の利用者数は、年間に12万4千人から14万5千人という状況である。</p> <p>経営状況に関する詳しい分析まではできていないが、収入額は、年間1億7千万円から2億1千万円程度であると確認している。</p> <p>また、近年新設した3つのスケートリンクは、全てが太陽光発電を設置しており、年間の光熱水費のうち約75%程度が売電収入で賄われているという状況である。</p>			
<b>【対応方針・進捗状況】</b>		検討中	対応中
◆ 対応方針			
◆ 進捗状況			
◆ 報告日 平成28年3月22日(2月定例教育委員会)			

## 鳥取市議会〔一般質問〕 教育長・局長答弁 対応方針等 概要

市議会名	平成28年2月定例会		
議員名	金谷 洋治	担当部局	教育委員会
会派名	会派新生	担当課	学校教育課
質問・答弁月日	3月3日		
質問形態	代表質問	個別質問	登壇
			追及
質問事項	<p>1 創生総合戦略について  (1) ひとづくりについて</p>		
<p><b>【質問要旨】</b>  各中学校区で、郷土愛の醸成のために具体的にどのような取組を行っているか。</p>			
<p><b>【答弁要旨】</b>  <u>地域の活性化には郷土愛の醸成は不可欠である。</u>  河原中学校区では、キリン獅子の伝承や地域の食材を使った料理の紹介など、未来の河原町の町づくりへの提案をしたり、青谷中学校区では、ようこそ祭りを盛り上げるためのアイデアを発表したりなど、<u>各中学校区の教育フォーラムで子どもたちは発言していた。大変頼もしく感じた。</u>  また、<u>中学校区で地域貢献活動を行っている校区もある。</u>例えば、地域の運動会へ中学生が役員として参加したり、部活動単位で校区内や文化財指定地に出向き、清掃活動などを行っている。  <u>地域の方からは、これらの活動に温かい声かけをいただき、子どもたちは役立ち感を感じ、地域をいっそう愛することになると思う。</u>  また、鳥取市版コミュニティ・スクールを進める6小中学校（散岐小、桜ヶ丘中、青谷小・中、米里小、千代南中）があり、保護者や地域の方が学校の活動に積極的に関わっていただいているが、例えば、散岐小学校では、しいたけの菌の植え付けを地域の方に教えてもらったり、学校の裏山を自然に触れる遊び場に造成してもらったりしながら、<u>自分の学校は地域の学校だと感じ、地域の人の温かさに触れ、ふるさとを愛する思いにつながると思う。</u></p>			
<b>【対応方針・進捗状況】</b>		検討中	対応中
			対応済
◆ 対応方針			
◆ 進捗状況			
◆ 報告日 平成28年3月22日(3月定例教育委員会)			

## 鳥取市議会〔一般質問〕 教育長・局長答弁 対応方針等 概要

市議会名	平成28年2月定例会		
議員名	金谷 洋治	担当部局	教育委員会
会派名	会派新生	担当課	学校教育課
質問・答弁月日	3月3日		
質問形態	代表質問	個別質問	登壇
			追及
質問事項	<p>1 創生総合戦略について  (1) ひとづくりについて</p>		
<p><b>【質問要旨】</b></p> <p>追及2 選挙制度が変わり18歳から選挙権が付与されたように、今後は若者の市政参画をもっと進めていく必要がある。例えば、政策コンテストなど、本市の中学生自らが柔軟な発想で討論し、公開の場で政策提案するなど市政に関心をもてば、まちづくりの大きな力になると思うが、教育長の所見を伺う。</p>			
<p><b>【答弁要旨】</b></p> <p>議員がご指摘のとおり、政策コンテストなどで、中学生の柔軟な発想を鳥取市の政策に活かしていくことは、大切なことだと思う。</p> <p>本市においては、これまで姫路市との中学生交歓会や年末に開催している、「輝く青少年を考える会」等で、市長への質問や市政への提案等を行ってきている。また、小中学生についても、本議場で「いじめ防止・仲間づくり」などをテーマに意見交換を行っている。</p> <p><u>今後は、そのような場面を活用し、さらに視野を広げ、市民の一人として取り組ませていきたい。そのためにも、学校はもとより地域でも大人の豊かな発想を子どもに示したり、支援したりしながら子どもたちのアイデアを引き出していただくこともお願いできたらと思う。子どもたちが、市政への関心を深めることは、「ふるさとで子どもを育てる」という観点からもとても意義深いことだと考える。</u></p>			
<b>【対応方針・進捗状況】</b>		検討中	対応中
<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">対応済</span>			
◆ 対応方針			
◆ 進捗状況			
◆ 報告日 平成28年3月22日(3月定例教育委員会)			

## 鳥取市議会〔一般質問〕 教育長・局長答弁 対応方針等 概要

市議会名	平成28年2月定例会		
議員名	寺坂 寛夫 議員	担当部局	教育委員会
会派名	会派新生	担当課	生涯学習・スポーツ課
質問・答弁月日	3月8日		
質問形態	代表質問	個別質問	登壇
質問事項	<p>2 鳥取市スポーツ推進計画について</p> <p>(1) 計画の基本的な考え方について</p> <p>(2) 子どものスポーツ機会の充実への取り組みについて</p> <p>(3) 今後の推進計画に伴う実施への具体的施策について</p> <p>3 少年スポーツ振興基金と青少年育成基金について</p> <p>(1) スポーツ振興基金運用の現状と考え方について</p> <p>(3) 今後の基金運用について</p>		
<p><b>【質問要旨】</b></p> <p>(その1) 『鳥取市スポーツ推進計画』に基づくスポーツ推進の基本的な考え方を伺う。また、『鳥取県スポーツ推進計画』との違いも比較しながら具体的に尋ねる。</p> <p>(追及1) 子どものスポーツ機会の充実については、子どもの頃から体を動かす遊びや運動の実践が大切と考えが、<u>具体的な取り組みについてどのように考えているのか伺う。</u></p> <p>(追及2) <u>スポーツクラブの実態把握や指導者への研修機会の提供によるスポーツ振興が重要と考えるがどのように考えているのか伺う。</u></p> <p>(追及3) 2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催も決まり、本市の子どもたちは出場することに夢を持ち、実現に向けて頑張っている。また、国民体育大会での成績向上に向けた取り組みも進んでいる。<u>今後もより一層の少年スポーツの推進に取り組む必要があると考えるが、具体的な施策についてどのように考えているのか伺う。</u></p> <p>(その1) スポーツ振興基金は昭和59年に造成され、少年スポーツの振興にはこの基金の運用が重要と考えるが、<u>これまでの基金の運用状況と今後の活用の考え方について伺う。</u></p> <p>(追及1) <u>統合後の『青少年育成基金』については、積極的にスポーツや文化の振興などに活用し推進を図る必要があると考えるが、どのような考えか伺う。</u></p>			
<p><b>【答弁要旨】</b></p> <p>(その1) 本市の計画は、『すべての市民がいつでもスポーツ活動を実践できる環境を整え、スポーツ活動を通じて、生涯にわたって活力に満ちた豊かな生活を送ることができる鳥取市』を基本理念に、次の4つの基本方針からなっている。</p> <p>①「子どものスポーツ機会の充実」</p> <p>②「生涯スポーツ社会の実現」</p> <p>③「地域におけるスポーツ活動の推進」</p> <p>④「競技力向上につながるスポーツ環境の整備」</p> <p>である。</p> <p>これらを柱にして、<u>年齢や性別、障がい等を問わず、関心、適性等に応じてスポーツに親しむことができるまちの創造を目指すものである。</u></p> <p>また、平成26年3月に県が策定した『鳥取県スポーツ推進計画』とは基本的な考え方に違いはないと認識している。</p> <p>(追及1) 「スポーツ推進計画」では、「子どものスポーツ機会の充実」を基本方針の一つに掲げている。</p> <p>生涯にわたってスポーツに親しむためには、<u>子どもの頃から遊びやスポーツに触れ、体を動かす習</u></p>			

慣を身に付けることが大切である。

そのため、乳幼児期から体を使った遊びや運動に触れる機会を提供するとともに、児童期以降の学校体育・社会体育の充実を図ることとしている。

具体的には、トップアスリートが先生となって、子どもたちに夢を持つことや仲間と協力し合うことの大切さを伝える「夢の教室」事業の拡充や、県内唯一のプロスポーツチームを活用して、子どもたちに楽しみながら運動等を行う機会の提供に努めるなど、スポーツを通じて子どもたちの心と体の健全育成に取り組むたいと考えている。

(追及2) 「スポーツ推進計画」においては、スポーツ少年団以外で行われている少年スポーツクラブの実態把握に努めるとともに、支援のあり方や内容を検討することとしている。

また、小学生のスポーツ活動や中学校での部活動においては、指導者や保護者、学校や地域の関係者が少年スポーツの望ましいあり方を共有する体制づくりが重要であると認識している。

本市が策定した「小学生スポーツ活動ガイドライン」や「中学校における部活動ガイドライン」のより一層の周知徹底に努めるとともに、指導者の指導力向上につながる実技指導研修等の充実を図りたい。

(追及3) 本市では、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、全国規模の大会やキャンプ・合宿の誘致に積極的に取り組んでおり、来年度はサッカーの「インターナショナルドリームカップ」や「日本パラ陸上競技選手権大会」の開催が決定している。

トップアスリートの競技や練習を間近で見ることのできる機会を作ることで、子どもたちが大いに刺激を受け、夢や目標を抱いてくれることを期待している。

少年スポーツを推進するには、指導者の育成も不可欠であり、指導者向けの研修会や資質向上につながるような情報提供にも努めたい。

さらには、全国大会等への派遣支援の拡充や優秀な成績を収めた選手の顕彰制度の充実を図るなど、様々な施策を実施することで、競技人口の増加と競技力向上を図りながら、より一層の少年スポーツの推進をめざしたい。

(その1) 少年スポーツ振興基金は、「スポーツを通して明朗で健康な小中学生を育てる」ことを目的に、民間団体から受けた100万円の寄付金を財源にして昭和58年度に設けられたものである。

その後、各種団体等からの寄付金を積み立てながら、基本的に定期預金金利を上乗せして運用している。

また、全国中学校体育大会の鳥取市開催支援などに一部を取崩して(取崩し額=約450万円)活用し、平成26年度末現在の基金残高は1,647万円という状況である。

今後については、「鳥取市スポーツ推進計画」の具体的施策の推進を図るため、鳥取市スポーツ推進審議会などで広く意見を伺いながら、小中学生のスポーツ振興に有効に活用していきたい。

(追及1) 基金統合により、『少年スポーツ振興基金』と『青少年育成基金』は一本化されることとなるが、いただいた寄付等の趣旨を十分踏まえつつ、小・中学生のスポーツ振興、並びに文化活動の振興や社会奉仕体験活動・自然体験活動への支援など幅広く青少年の健全育成の推進のために活用していくこととしている。

【対応方針・進捗状況】	検討中	対応中	対応済
◆ 対応方針			
◆ 進捗状況			
◆ 報告日	平成28年3月22日(2月定例教育委員会)		

## 鳥取市議会〔一般質問〕 教育長・局長答弁 対応方針等 概要

市議会名	平成28年2月定例会		
議員名	足立考史	担当部局	教育委員会
会派名	無所属	担当課	学校教育課
質問・答弁月日	3月8日		
質問形態	代表質問	個別質問	登壇
質問事項	2 放課後児童クラブについて (1) 新規・分級・拡充されるクラブの理由について (2) 開設時間・受け入れ対象学年の見直しについて (3) 支援員の人材確保について (4) 支援員の処遇改善について		
<b>【質問要旨】</b> ①平成28年度事業について、分割・新設の理由、拡充の方法について ②4年生以上を対象としたり、開設時間を19時までに延長する変更をしたクラブはあるか。 ③支援員の人材確保について、現状をどのように認識し、どのように対応を考えているのか。 ④「鳥取県学童保育連絡協議会」への指導や支援を検討してはどうか。 ⑤「放課後児童支援員等処遇改善等事業」を人材確保の観点からも活用すべきではないか。			
<b>【答弁要旨】</b> ①平成28年度の入級者は、 <u>2, 218人を見込んでいる</u> 。定員を上回る大規模クラブについては、分割を基本とし、学校内で特別教室等を利用して新たに第2または第3クラブを開設することとしている。分割に至らないまでも、入級者が増加するクラブでは、1部屋では狭くなり、さらに別の特別教室も確保するなどして受け入れ体制の拡充を図ることとしている。新設については、要望のあった学校において保護者会を設立して、4月に開設を予定している。 ②直近の聞き取り調査で、平成28年度、4年生以上の受入れを予定している児童クラブは、49クラブのうち38クラブである。これは本年度より2クラブ増えるものである。開設時間についても、新年度に、新たに19時までに延長するクラブはないが、18時までに延長するクラブが1クラブ、18時30分までとするクラブが2クラブ予定されている。引き続き <u>保護者会と協議しながら開設場所の拡充を図り、開設時間の延長や4年生以上の受け入れを促進</u> していく。 ③放課後児童支援員等の確保については、保護者会等が独自で行っており、地域の方や知り合いの方へ直接声掛けを行ったり、ハローワークで募集したりして確保されている。1日開設となる長期休業中については、多くの人材が必要となるため、例年、大学生や勤務を希望される方々に応援をいただき、対応している。本年度、放課後児童クラブ連合会から、急な欠員補充のための支援の要望が出されたこともあり、 <u>人材バンクの設置に向けた研究を進め、クラブのニーズに対応した支援員等の確保ができるよう努めたい</u> 。 ④「鳥取県学童保育連絡協議会」は、目的を同じくするクラブが集まって、研修や情報交換等が行われている任意の組織であると認識している。このようなクラブ間の交流や研修の連携は、有意義だと考えており、今後も <u>このような活動が広く展開されることを期待</u> している。市としては、この会に参加している支援員からの声も必要に応じて事業に反映するなどもしている。協議会に対しては、引き続き助言や支援を行っていきたい。 ⑤議員ご紹介の「放課後児童支援員等処遇改善等事業」は、平日に18時30分を超えて開設するクラブにおいて、常勤職員を配置するための追加の経費や賃金改善に必要な費用の一部を補助する事業であり、 <u>個別の児童クラブの18時30分以降の開設へのニーズを把握しながら、保護者会等と一緒に活用に向けて検討</u> したい。			
<b>【対応方針・進捗状況】</b>		検討中	対応中
◆ 対応方針			
◆ 進捗状況			
◆ 報告日 平成28年3月22日(3月定例教育委員会)			

## 鳥取市議会〔質疑〕 教育長・局長答弁 対応方針等 概要

市議会名	平成28年2月定例会		
議員名	岩永 安子 議員	担当部局	教育委員会
会派名	共産党	担当課	生涯学習・スポーツ課
質問・答弁月日	3月8日		
質問形態	代表質問	個別質問	登壇
質問事項	<p>1 鳥取市公民館条例及び鳥取市コミュニティ施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について</p> <p>① 条例改正の目的について</p>		
<p><b>【質問要旨】</b></p> <p>(その1) 今回の一部改正の目的は何か。 また、基幹公民館のコミュニティ施設への移行に伴い、<u>社会教育法上の位置付けはどのように変わるのか。</u></p> <p>(その2) これまで基幹公民館が担ってきた役割が大きく変化してきたとのことであるが、<u>どう変化してきたのか。また、その原因は何なのか。</u></p> <p>(その3) 基幹公民館がコミュニティ施設に移行することを、<u>地域住民にどのように周知を図ってきたのか。</u> また、この移行について、各地域の<u>地域振興会議</u>で説明し、意見を求めたと伺っているが、<u>どのような意見がでたのか。</u></p>			
<p><b>【答弁要旨】</b></p> <p>(その1) 基幹公民館は、合併前にそれぞれの新市域にあった『中央公民館』を引き続き活用するため、新たに『基幹公民館』と位置付けたものである。 合併後10年以上が経過し、これまで『基幹公民館』が担ってきた役割も大きくが変化し、地域からは、より有効な利活用ができるよう検討を求められてきた。 <u>社会教育法を設置の根拠とすることによる制限を取り除くことで、地域にとってより幅広く利活用していただけることを目的として、このたび『基幹公民館』を『コミュニティ施設』に移行することとしたものである。</u> この度の条例改正によって、この施設は社会教育法を根拠とするものではなく、条例上も「<u>地域住民の文化の向上と福祉の増進に寄与することを目的</u>」として定められており、<u>基本的な設置の目的は変わらず、より使いやすい施設となる。</u></p> <p>(その2) 平成20年3月に交付された「<u>鳥取市自治基本条例</u>」に基づき、<u>地区公民館に、『コミュニティ活動の拠点施設』という位置づけが加わった。</u>平成20年4月には、「<u>鳥取市教育委員会事務局等組織規則</u>」を改正し、<u>地区公民館に関する業務が教育委員会から市長部局に補助執行された。</u> これにより、<u>それまで『基幹公民館』が担ってきた「地域内の地区公民館を管轄する」という大きな役割が、市長部局の協働推進課、あるいは各総合支所の地域振興課に移管されることとなった。</u> このことから、社会教育法に位置付けられた公民館を超えた新たな地域ニーズに対応した施設利用の環境整備が求められていた。</p> <p>(その3) この度の条例改正に関し、<u>具体的な地域住民への周知については、支所だよりへの記事の掲載、基幹公民館出入口への掲示、現在基幹公民館を使用している団体等への説明会の開催等で図っている。</u> さらには、<u>地域振興会議を通して各地域の意見をいただきながら検討を進めてきている。</u> 地域振興会議では、「<u>民間の生涯学習講座等が開催できるようになり、ありがたい。</u>」とか「<u>施設の利用が増え、施設が地域内に存続する可能性が高くなる。</u>」等の肯定的な意見が多数出されたほか、「<u>現在使用している団体等が今までどおり使用できるように配慮してほしい。</u>」等の要望をいただいている。 いずれにしても、これまで通り地域の皆さんに使っていただく施設であることは変わるものではなく、<u>地域にとって、より使い勝手の良い施設となるよう、この度の条例改正を行うものである。</u></p>			



【対応方針・進捗状況】	検討中	対応中	対応済
◆ 対応方針			
◆ 進捗状況			
◆ 報告日 平成28年3月22日(2月定例教育委員会)			